

## モザンビーク



モザンビーク

### 私達の国

モザンビークは、アフリカ南東岸に位置しています。この国は、17年間に及んだ内戦を終結に導いた1992年の和平合意の制定以降から現在も、社会経済成長の最中にいます。

モザンビークは1975年に、約5世紀に及んだポルトガルによる領土支配を終わらせ、独立しました。現在は、1990年に制定された憲法の下、多党制の民主制をとっています。

今日、依然としてモザンビークは、非雇用や低い農業生産、限られた社会基盤や社会保障などを含む、大規模な社会、そして経済の挑戦の最中にあります。これらの、そしてまた他の多くの問題により、モザンビークは依然、世界で最も貧しい国の1つに数えられています。

2003～2005年間の1人当たりの収入は、年間290ドル、エイズの感染率は16.2%で、乳幼児死亡率も1000人中101人と、10%をやや上回っています。

それでも、ここ数年の中で、貧困の撲滅と人間開発の向上において、モザンビークはそれなりの実質的な進歩を成し遂げています。継続する成長と社会における支出の増加は、国内の貧困層の割合の低下に貢献し、2003年には、6年前の1997年の割合より16%低い54%となりました。不平等は地域の基準で低く抑えられ、発展はミレニアム開発目標(MDGs)の鍵である乳幼児死亡率と出生後の登録へと向かいました。国内におけるこの登録の割合は、1995年の60%から2000年には92%にまで向上し、2003～2005年の間では、110%の向上率が見受けられます(女子100%、男子121%)。

The Projects of ADPP Mozambique



No.	説明	量
1.	人口	1881 万人 (UN2004 年)
2.	面積	801.59 km <sup>2</sup>
3.	平均寿命	38.1 歳
4.	成人識字率	45.2%
5.	初等教育普及率	54%

6.	乳幼児死亡率	1000 人中 197 人
7.	人間開発	16%
8.	国連開発指数順位	170 位
9.	民営化、地方分権化率	23%
10.	農業、農村開発率	8%
11.	社会基盤普及率	8%
12.	民営企業開発率及び発展率	2%
13.	孤児	150 万人以上

## マプトのチルドレンズタウン

マプトのチルドレンズタウンは 1991 年に設立され、それ以来、多くのストリートチルドレンや孤児、そして問題を抱えた子ども達の家、並びに学習の場となってきました。今日では、100 人の寄宿生と 500 人の生徒を抱えています。ほとんどの生徒は近隣の貧しい地区、パイロ・ダ・コスタ・ド・ソルから来ています。

子ども達がマプトのチルドレンズタウンの住人になった理由は様々です。中でもよく見られるのが、両親の離婚による生活場所の喪失、両親が貧し過ぎて子どもを養いきれない、片方、もしくは両方の親が、エイズやマラリア、結核などで死亡した、子どもが見捨てられ、孤児になったなどの理由です。

そして、政府内の、女性及び社会保障省、孤児院、または同地域内で活動する NGO などが積極的に働きかけて、このような状況下にある子どもをチルドレンズタウンへと連れてきます。家族が子どもを直接連れてくることもあります。

マプトのチルドレンズタウンでは子ども達は学術的な技術を学び、よい教育を受けることができます。彼らは、日常生活で必要とされる数多くの実践的な技術を、実際に行うことで身に付けていきます。彼らは、自分たち社会の問題を自分達や学校の中で解決する力を学べる、訓練された集団



的な生活を行うことで学びます。彼らはまた、地域社会でも働き、将来に活かすことができる、集団的な生活についても学びます。彼らの生活のための布石となる様な、職業的な技術の獲得も行います。

先にあげた様な様々な理由のため、チルドレンズタウンへ来た時点では、生徒たちは通常、彼らの年齢での学業の習熟度の基準より後れをとっています。彼らは日々を生き抜くこと、様々な葛藤や困難の中で家族と生活することに専念しなければならないあまり、勉強などに充てる時間を確保することが非常に難しいのです。

彼らがチルドレンズタウンの学校で学び始めるとき、彼らはまず、基準に追いつくところから始めなければならない、全くの基礎から始めなければならないこともあります。彼らはそれを、他の

先生や、DI (Development Instructor。ボランティア) の力を借りて行います。通常の就業時間だけではなかなか足りず、生徒の多くは夕方別に、数学や英語、ポルトガル語を学ぶクラブ活動に参加しています。生徒たちはそれぞれ得意不得意があるので、彼らは時間をかけて自分だけの学習計画を作ることにも学びます。学習に必要なものは全て揃っているので、彼らは自分の計画を立てて先生の許可をもらい次第、すぐに勉強を始められます。



一般的に、女子の方が男子より、学習に関して大きな問題を抱えています。これは、彼女たちの育った環境が、彼女たちが教育を受けることに対して消極的、或いは否定的だからです。したがって、先生やDI達は、彼女達が勉強に対して前向きになれる方法を探する必要があります。彼らは、女子生徒達がよい学校生活を過ごせるよう手助けし、健康や HIV/AIDS、性的暴力や女性の人権に関する特別なクラブを、課外活動として企画します。彼らは、彼女達の本心と話をしようと試みているのです。

生徒達は、確実に一般的な習熟度へと追いつきます。学校の雰囲気や良好な仲間どうしの関係が、生徒達を刺激するのです。そして、学校における勉強面、また、技術的な面での上達や、責任を果

たすこと、社会に属することなどが、1人1人の成長の基礎となります。

生徒達は、職業別の集団の中で、実践的な技術を身につけます。生徒達は1年間、芸術や工芸、裁縫、陶工、彫刻、情報技術や金属加工から1つを選択し、その分野での技術を身につけます。生徒達はそれぞれ選択した分野の中で、手と頭を使うことを学び、創造的になること、そして、集中し我慢強くなることを学びます。

学業の達成と実践的技術の獲得の過程は、生徒達に多くの自信を与えるため、とても重要な人間形成のための経験となります。学業で大きく後れをとっている生徒の多くは、実践的な技術の獲得に大きな興味を持ち、ひいてはそれが、学業の方へも影響することになります。

### 寄宿生活

寄宿生達は、学校内の清掃や維持の責任を負い、これにより、実践的な技術と集団生活の技術の両方を身につけます。彼らは、学校でのスポーツや文化的な活動に参加し、次第に、そうした活動の企画者になったり、より積極的に参加したりしていくようになります。彼らはゲームを企画したりそれに参加したり、学校でバンド活動をしたり、伝統舞踊やモダンダンス、合唱隊を結成したり、それぞれに地域の人たちを招いて、一緒に活動します。



毎週水曜日、寄宿生達は会議を開きます。ここでは、様々な問題が定義され、解決されたり、生活態度が話し合わせ、それを正されたり、次の週や週末の予定に着いて話し合われたりします。

マプトのチルドレンズタウンには、以下の4つの種類の週末があります。

#### 1. ビルディング・ウィークエンド

ここでは、学校内の家具や設備、そして内外の維持のための修繕などが行われたり、美化が行われたりします。

#### 2. スポーツ・ウィークエンド

スポーツイベントが企画され、生徒達や地域の人々が招かれ、参加します。

#### 3. カルチャー・ウィークエンド

学校周辺の多くの人たちが招待され、生徒達がダンスを踊ったり音楽を演奏したり、作品を展示したりして人々を楽しませます。

#### 4. フリー・ウィークエンド

生徒達が、親元へ帰る週末です。帰る場所のない生徒には、別のプログラムが計画されます。

週末を通して生徒達は、多くの社会的、実践的技術を身につけ、友達関係を築き、人々のため、そして自分達のためにイベントを企画することを学びます。それら全てのことが、彼らの成長や、生産的、社会的精神の形成に必要とされ、生徒達はこれらのことから、生涯において役に立つ多くのことを獲得します。

#### 自宅通い

生徒達が家庭内での問題のために家を終わられてチルドレンズタウンへ来た場合、先生達は彼らの家庭内での問題を解決させ、生徒達が再び家庭に戻り、家族の絆を作り直せるように努力します。

現在、約 30%の生徒は家族とともにいます。残りの生徒たちは、家族がいなか、解決不可能な家庭内の問題を抱えています。



# 教員養成学校～初等教育は教育制度の礎～

Humana People to People (以下 Humana)では、開発促進のために Teachers Training College (TTC：教員養成学校)において、アフリカの国々の農村部における小学校教員を養成しています。

しかし、開発とは、初等教育以外の多くの場所、例えば危険に晒されている子どもたちの保護と養育、人口に見合う十分な食糧の供給、もしくは経済的利潤の創出や道路や病院といった社会基盤の整備という分野で始まっています。開発というものは、決して、何か1つのものから始められるものではありません。開発とは、いくつもの努力の集合としてのみなされるもので、どのようなことであっても、それ1つでは開発全体の解決にはならないのです。

アフリカの農村の小学校での困難な状況の中で教鞭をとる意思と可能性を持つ様な先生の教育は、アフリカでの開発に重要な貢献をします。

開発は、1つの教室の中で子どもたちと、献身的な先生との中からも始まります。よく訓練された先生のもとで、生徒も先生と一緒に、様々なことに思いを巡らせることができるようになります。

- ・ **挑戦**；先生が赴任先で出会うもの
- ・ **農村生活**；先生が赴任先で必要とされるもの
- ・ **教育**；日々の生活の中での最も重要な活動
- ・ **限られた状況での教育**；日々の中で直面するかも知れない、手持ちの資料や教材だけの教育
- ・ **1人1人の生徒を見る教育**；1人1人の子どもたちが必要としていること
- ・ **関係作り**；子どもの将来のケアのために、先生の同僚、生徒の親や政治家、地域の老人たちと関係を築くこと



- ・ **不撓不屈の心**；1つの生涯や困難を解決するより先に別の様々な問題が生じて、決して諦めたり疲れしたりしないこと
- ・ **豊富な知識**；地域のコミュニティにおいても、知識は非常に渴望されるもの
- ・ **実践的で技術的**；先生は時折、新たな教室の建設を自ら指揮する可能性がある

このリストは、Humana が、実際にアンゴラやマラウイ、モザンビークや予定されている他の国々へ先生を送る前に、先生達に身につけさせるべく努力している項目の一部です。

2006年までに Humana は、Teacher Training Program (教員養成プログラム) として、アンゴラに7つ、マラウイに1つ、そしてモザンビークには9つの学校を持ち、モザンビークには大学も1つ持つまでとなりました。

計画は更に進む予定で、アンゴラでは将来的に教育省と共同して16の学校を、モザンビークでも同じく政府との協力で12の、マラウイでも6つの学校を運営する予定です。

この学校はポルトガル語では、未来の先生のための学校 (EPF: Escola de Professores do Futur) と呼ばれています。

このプログラムが 1993 年にモザンビークで開始してから現在まで、アンゴラ、マラウイ、そしてモザンビークで 4,400 人が教育を受けました。卒業生のうちの 80%は、農村部へ赴いて教職に就いたり、EPF で新たな教員の育成に携わったりしています。

モザンビークでは、半分以上の大人が読み書きできません。特に女性の 66%は、読み書きできないといわれています。モザンビークでは 1993 年の戦争終結以来、初等教育に大きく力を入れてきて、現在では 80%の子どもたちが 5 年間学校へ行き、中でも 30%は 6 年目、7 年目の教育を受けるようになりました。

1 クラス平均で 74 人の生徒がいて、特に農村部では更に多くなります。モザンビークでは依然、教室や家具、教材が不足していますが、それでも多くのことが行われてきました。不十分な教育しか受けられなかった多くの先生がしっかりした教育を受け、その先生の多くが、国家規模での、教員の質を向上させるキャンペーンに参加しています。

9 つの学校と新たに始まる 3 つの学校とともに、ADPP モザンビーク (モザンビークでは Humana ではなく ADPP と呼ばれる)は、国内における初等教育の発展に貢献しています。これまでに 3,000 人の教員が送られ、農村部の小学校で働いています。

## プログラム

Humana の教員養成プロジェクトは、そこで学ぶ生徒達にとって、彼ら自身の発達の枠組みとなり、将来への願いや期待をはっきりさせるものとなり、また、倫理形成や将来のための能力の養成の場となります。これは、2 年半 8 期に及ぶ教育を通してもたらされます。

**第 1 期「私たちの住む世界」**；3 ヶ月間の基礎プログラムです。生徒達は世界の状況を学習し、

世界で起こっている問題と、それに対する世界の解決の試みについて学びます。

**第 2 期「私たちの国」**；3 ヶ月間、自分の住む国の過去や現在について学び、また、将来についての考えを話し合います。こうした知識は、彼ら自身、そして後には、その家族や友人、近所や所属するコミュニティ全体へと広がっていきます。

**第 3 期建築・修繕月間**；1 ヶ月間、生徒達はペンキ塗りやドアの修理、煉瓦積みといった活動に従事し、その活動を通して、実践的な技術の身につけ方や、建築、修繕の計画を立て、実行することを学びます。

**第 4 期「発展的学習と教育実践」**；この期間は 5 ヶ月間です。その半分は、教育方法を学ぶことに費やされます。生徒達は、近隣の小学校で教え方を学びます。残りの半分は、学校で、基礎科目の勉強をします。

**第 5 期「学習／地域開発活動の参加」**；学習に集中する期間と、地域の開発活動に参加するための準備期間となります。モザンビークでは、生徒たちは 1 人 1 人、特に自分の興味のある分野を選びます。これは、その分野でのスペシャリストになるためでは



なく、更に深く学習するための機会を設けるためです。この期間の間に生徒達は、憲章についても学習します。

第6期「教育実習」；教員養成プロジェクトの一環として、この期間の生徒達は学校を離れ、11ヶ月間、実際に現地の農村の小学校へと赴きます。

### 学校での寄宿生活

養成期間中、生徒達は自分達の協力や自己形成の技術を高めます。この部分はプログラムのカリキュラムには明記されていませんが、積極的関与を求め、集団生活、生徒1人1人に与えられる挑戦やお互いを高め合い、刺激し合う生活の中で、自然と生徒達が習得していきます。

### 学習と文化の中心としての教員養成学校

教員養成学校は、各地域やコミュニティの中心です。学校には、その知識や文化、教育的な催しを地域と共有する役割を持っています。また、地域の人々もこれに応じ、学校に、価値ある貢献をし、また、更なる地域の開発を求めます。

学校が地域の中心として行う8つのこと

- ・ 2年半の教員養成
- ・ 教員への更に発展した教育



- ・ 平常授業
- ・ 夕方の課外授業
- ・ よく教育された教員の配備
- ・ 教育に関するワークショップ
- ・ 地方や農村の学校の支援
- ・ 幼稚園の先生の育成

### 教員養成がうまく行くわけ

教員養成プロジェクトは、旅をするかのように、世界全体から始まり、それぞれ住んでいる国や地方についての学習を通して、それぞれが属する学校を取り巻く地域の学習へと移ってゆきます。この2年半という期間全般を通して、未来の先生達は開発について学びます。

彼らは様々な経験を持った様々な人々との出会いをもとにした調査や、様々の多くのイベントの企画と運営、人々や為政者への訪問、知識経験の交換を通して自己を磨きます。これらの1つ1つが彼ら自身の中に、人々への愛情や彼ら自身、そしてそれを取り巻く人たちの開発のために何かをしようという決心を育みます。

研修期間中には、通常の教育実習に多くの生徒が参加する一方、生徒の中のいくらかは、実際に農村地域に赴いて小学校で先生として働き、実際に給料を得ることもあります。そこで、彼らは、実際に教えながら、開発に関わる活動も促進します。

学校の周辺の地域において、生徒達は、地域の若者や大人を巻き込んだ活動を行います。そしてその結果を自分達で分析し、評価します。

この経験は、彼らが地域において必要とされているということ、彼らに決定的に気付かせます。彼らの働きはとても重要です。彼らは、周りの人々に利益をもたらす活動を遂行でき、そして特に貧しい農村地域での活動や生活を通して、彼らは彼ら自身を高めていきます。

# チャイルド・エイド

チャイルド・エイドは、貧困に対して人々が結束して闘っていく道の1つです。このプロジェクトは、現代のおぞましいほどの不平等の中では打ち勝つことが非常に難しいと思われる貧困への闘いへ、多くの人を参加させるものです。そして現在、毎年1千万人を超す乳幼児が5歳の誕生日を待たずしてその命を終えている現状の中で、彼らを貧困から守ることはこれまで以上に必要とされています。



私達は、貧困に対する闘いが、長期的なものであることを認めなければなりません。終わりが見えていようと見えてなかりようと、私達は闘い続けなければならず、そして、どんなに小さな克服や勝利でも、大きな勝利と同じように重要なのです。貧困との闘いの中では、前日に勝ち取ったものを翌日再び失うことがしばしばあります。そのような時には、またふりだしから始めなければなりません。貧困にあえぐ国の一員になるということは、世界に遍く広がる不平等の影響を多大に受け、それは、チャイルド・エイドで世界を変えていく困難よりも、遥かに大きな困難を伴うものとなります。

チャイルド・エイドは日々、綺麗で安全な水のための新しい井戸とポンプの設置や、小学校1年生への栄養ある食事供給のための学校菜園などを行っています。また、子ども達の家族も野菜の栽培を始められるように、少額の資金を貸すこともあります。女性のために衛生に関する講習会を開いたり、新しいトイレの設置が行われたり、更に多くの子ども、特に少女が学校へ行けるようにサポートすることもあります。

## チャイルド・エイドの10の活動方針

1. 子どもの家族の経済基盤の強化
2. 健康維持

3. 就学前教育の普及
4. 地域社会の中への子どもの社会的、経済的、政治的又は文化的面での関与の促進
5. 孤児の保護、養育
6. 教育
7. 地域開発
8. 環境への配慮、そして、更に小さなプロジェクトごとに設ける2つの小さな方針

チャイルド・エイドは子ども、その家庭、そして地域と協力して、子どもやその家族の生活環境の向上、子ども達の潜在能力の100%の開発を確実にするために活動します。チャイルド・エイドは10つの方針を総合し、よりよい方向への変革を成し遂げるために、物資面と人間開発の両方において利益を生み出せるよう人々を率いていきます。そして、チャイルド・エイドの10つの活動方針の下、様々な国でそれぞれのプロジェクトは、子どもの保護に積極的な他の団体や政府、プログラムや個人と協力しながら、地域ごとの機会や状況を利用していきます。

チャイルド・エイドの成果は控えめに見ても非常に多く、1つ1つは決して大きくなくても、全体を見た時に、多くの進歩と新たな機会を生み出す数多くの活動を繰り返し行っていくことで、大きな影響を及ぼしていくことがいえます。

彼らの活動により変化がもたらされ、最終的には、人々の上にその効果が影響します。この活動に参加した人々は、その活動を通して、周りの人々との協力のもと、どのように物事を企画運営していくかの教育を受け、行動を起こすこと、物事を変えることを学びます。

数えきれないほどのプロジェクトが、次のステップを話し合うため、問題を話し合い解決策を見いだすため、そして、将来の運営の計画を立てるために定期的にミーティングを開きます。彼らはそれぞれ自分達の得意とする分野で行動を起こし、周りの人々を自分達の活動に組み込んでいきます。時にはそれは失敗し、うまく行かない時もありますが、その後、再び活動を試み、新たな集まりを起こして維持し、困っている人々の状況の改善に努めるようになるかは、それぞれのチャイルド・エイドのプロジェクト次第となります。

これまでに一度も何かの団体の一員として活動に参加することを考えたこともなかった人達は、多くの人々が同じ目標を掲げて活動する団体の中で、どのように自分達自身を組織していくか、どのようにしてミーティングを開くか、どのように発言して他の意見を聞くか、更には、民主的な家庭の中で生じる実際の問題への対応を主体となって計画し、



実行していく方法を身につけていきます。それでは、これらのことは、子ども達とどのように関わっていくのでしょうか？

はじめに、ここでは「人々」という時には、既に子ども達が、教育や訓練を受けるもの、そして様々な問題へ対応する活動因子として含まれているといえます。更に、子どもたちの父母や祖父母が、家族の状況を向上させようと活動に従事していることは、すなわち、子ども達の生活環境の向上にも直接つながっているということもできます。

それぞれのチャイルド・エイドのプロジェクトが、独自の方法を見つけていきます。

モザンビーク、ニャマタンダ(Nhamatanda)におけるチャイルド・エイドでは、各村からで孤児の世話をしている人々から構成される地域援助委員会が活動単位となります。そして、活動を通して、より多くの人々を孤児や子どもの世話に従事させ、食の安全や健康、衛生、そして広い意味での収入創出活動へと参加させます。

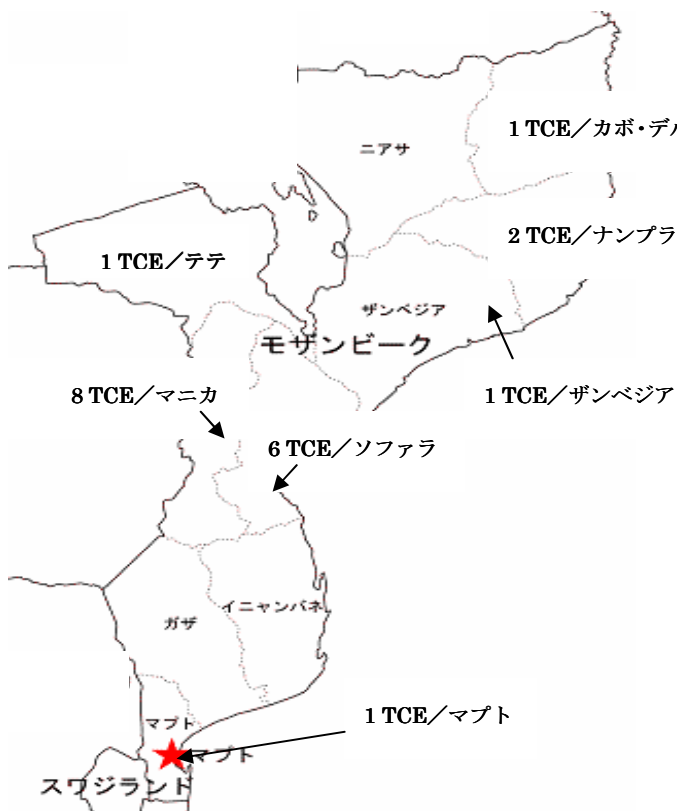


# TCE (Total Control of the Epidemic)

現地のオフィサーが3年に及ぶプログラムの中で、毎日、1人1地域住民を訪ねて街や村を訪問するTCEでは、その地域への教化の影響が見られます。

現地のオフィサーの仕事、そしてHIV/AIDS問題に関する住民1人1人との密な関係は、個人の性生活などに関する話をする際に障害となる、人と人との隔たりを壊すのに十分な信頼関係を築きます。現地のオフィサーがその地域の中に住んでいるということ、そして、必要とあれば彼がいつでも対応できるということが、TCEの活動地域内の人々にとってはとても重要なこととなります。2,000人ほどいる地域において、3年間にわたり現地のオフィサーが戸別訪問をして1人1人と話をしていくTCEの機能的なアプローチは、個人個人の意見の一致を得て、最終的には集団全体の、エイズウイルスに対する統一された対応を生み出すものとなります。この集団的な努力が、HIV/AIDSに対して長い闘いを繰り広げていくこととなります。

TCEの明確な構造と目標が、現地のオフィサーのエイズに関する活動を助けます。



## 世界規模のエイズ撲滅運動の一員としてのTCE

TCE (Total Control of the Epidemic: HIV/AIDS の撲滅運動) は、南部アフリカ諸国における HIV/AIDS の発症率を引き上げるために、設立されたプロジェクトです。TCE はジンバブエとボツワナでまず実施され、これらの国々は、この感染症との闘いへの長年に渡る努力の例となりました。

現在では、TCE のプログラムが始まってから 5 年が経ちます。TCE の趣旨は、地域ごとの HIV/AIDS を総括的にコントロールするという事です。2005 年末に TCE は、すでに 15 の地域で 150 万人に向けてプログラムが完遂され、21 の地域で 210 万人を対象としたプログラムが進行中でした。

TCE は、活動中の地域でエイズの感染状況を大きく変化してきました。このことは、プログラムが終了した地域の評価報告書や、現在活動中の地域で人々が、現状や将来的状況に関して口にしていることから明らかです。彼らは、TCE が彼らの地域の HIV/AIDS の状況を完全に変化させたと言っています。人々は必要な情報を与えられ、様々な行動が多くのことを変化してきました。

人々はこのプログラムを通して情報を手に入れ、実際の活動に目覚めます。そしてこの TCE の活動は、政府や他の民間団体、そして最終的に感染症の撲滅を目指す、他の組織と協力して行われます。

私達は今、撲滅に向けた正規の軌道にいますが、まだまだすべきことが多くあります。私達は、これからの 5-10 年のうちに、アフリカの多くの国で新たに TCE のプロジェクトを始めたいと考えています。そこには常に、HIV ウイルスが広まる速さと同じくらいの速さで、決定的に、なおかつ、組織的に介入する TCE のようなプロジェクトを必要とする人々の要求の高まりが見られるからです。

## エイズ - 貧困の病

### TCE の構造

1 つの TCE の地域は、人口 10 万人位を目安に定められます。そしてこの地域を更に大体 2,000 人ごと、50 に区分します。50 人の現地のオフィサーが送られ、彼らは 10 人ごと 5 つの、グループに分かれて活動することになります。

こうした 5 つの地域が集まって、管区を形成します。1 つの管区は 50 万の人口と、250 人の現地のオフィサーを抱えることになります。そして管区には、管区内の機能を潤滑にするための中央司令部とコミュニケーションセンターがあります。

更に、5 つの管区が集まって、大管区を形成します。大管区は 250 万人の人口と 1250 の現地のオフィサーを内包しています。大管区レベルでの活動は、大管区司令官に寄って進められます。

### 現地のオフィサーへのインタビュー

「私が TCE で働くようになってから、私は自分自身を健康に過ごし、また、自分の子ども達にとって、



十分なケアのもとで育てることがどれだけ重要かを目にしてきました。私には配偶者が 1 人います。以前は複数の配偶者を持っていたのですが、今では複数の配偶者を持つ危険性を知り、1 人だけと決めたのです。私の家族や親戚が感染してから、私は彼らに HIV や AIDS のことを話しています。私は彼らの性生活を変えようとしています。」 Maria Tembo

「私は常に、何か人の役に立つ仕事に就きたいと考えていました。現地のオフィサーになることは、私の生活を変えました。今では私は、男性に対して、気軽に性交渉に応じることは決してありません。なぜなら、私は長生きをして、自分の子どもの成長していく様子を見ることを決めたからです。私は今では、配偶者はお互い話し合っていく必要があると知っています。」 Galaletsang Motswelta

世界地理的な HIV ウイルスの広がり、非常に偏っています。あまりに偏りすぎているため、人々は常にこの病気に対して、疑問や偏見を持ち続けます。この地理的な偏りには複数の要因が背景としてあることは明らかで、それらの要因は、1 つの決定的な原因-貧困-に集約されます。

わずか 17 年前、状況は現在と非常に異なっていました。1987 年に、世界で初めてエイズ患者数の概観が WHO によってなされました。当時の総患者数は 49,329 人、そしてその大部分、つまり 35,219 人はアメリカで、5,012 人はヨーロッパで、そして 4,363 人がアフリカの患者でした。このとき、アメリカのエイズ患者はアフリカの 8 倍、ヨーロッパの 7 倍をも上まっていたのです。

しかしたった 18 年の間に疫病は爆発的に進行し、現在では総患者数の 3 分の 2 がサハラ以南のアフリカにいますといわれています。

### 貧困撲滅-エイズ撲滅

HIV ウイルスの弱点は、標的である CD4 細胞に感染するために、他の病原菌の力をほぼ 100% 借りて免疫システムの活性化を行わなければならないことです。したがって、HIV ウイルス撲滅のための私達の武器は、他の全ての病気に打ち勝つこと、

ということになります。

それは可能なことなのです。なぜなら、私達が問題としている病気は全て、治療法や予防法が知られているからです。

寄生虫や結核、マラリアや下痢、その他性的交渉によって感染する病気など、よく知られている病気を的確にコントロールすることで、HIV ウイルスの感染と蔓延を防ぐことができるのです。

したがって、私達は「生き抜くための 10 のルール」を定めました。それ欄項目の多くは、上で触れたことに関連しています。

10 のルール；

1. 飲み水の浄化
2. ビルハルツ住血吸虫を含む寄生虫の不保持
3. タンパク質を含む十分な食事
4. 複数のビタミンとミネラルの摂取
5. コトリモキサゾールを用いた HIV 初期感染患者への治療
6. 結核の蔓延防止
7. マラリアの蔓延防止
8. HIV を含む二次感染の防止
9. 個人、そして集団衛生の向上
10. 広範囲の ARV (抗レトロウイルス薬) 治療



## HOPE プロジェクト



モザンビークは、HIV/AIDS の脅威を好転させる大きな機会と可能性を示しています。モザンビークのエイズ感染率は 13.6% で、依然、蔓延と被害を及ぼす可能性を持っています。マプトの HOPE プロジェクトは、この大きな問題に立ち向かっています。

マプト市内、ボアネの HOPE センターは 2002 年 4 月に、ボアネ病院の近くに開設されました。センターは、MOZAL から支援を受け、政府の保健省からも資金援助を受けています。マプトの HOPE は、多くの人々が HOPE の活動に関与できるよう、10 つの支局を持っています。マプトの HOPE では、カウンセリングと人々の感染テストが行われます。中央のセンターには 3 人の、そして支局には 1 人ずつのカウンセラーがいます。

人々は、DI や地域の活動を通じて HIV テストを受けられるようになります。人々にテストを受けさせるようにすることは、時にはそう簡単に事が進まないこともあります。多くの人々にとって、HOPE センターまでが遠く、交通費を支払えなかったり、地域に深く根付いた HIV/AIDS への悪い迷信が人々の中に強く残っているためです。それでも、人々がエイズ患者に関する情報を多く入手できるようになり、こういった状況は、現在では徐々に変化しつつあります。

テストを受けた人の人数は、毎月、増加し続けています。活動を始めてから、7,059 人がこれまでにカウンセリングを受け、テストを受けてきました。彼らのうち 75% は陰性でしたが、25% は HIV ウイルスを持っている可能性が高いと診断されました。75% もの人がウイルスに対して陰性だったという事実は、これからの未来にまだまだ多くの予防の可能性があると、ボアネの人たちに多くの希望をもたらしました。彼らは互いに手を取り合い、エイズ予防の支持者となっていきました。

マプトの HOPE では、人々が様々な活動に参加できます。それらは、前向きな生活を送る支えとなり、

また、人々はそこで、HIV/AIDS に関する更に多くの知識を得ることができます。

マプトの HOPE では、HIV 感染者がどのように少ない苦しみのうちに長生きできるかを学ぶサポートを行います。感染者達は、どのようにして自分の健康のケアをするかを、身近に入手できる食糧から得る良い栄養や免疫能力、その他の機能を低下させる感染に対する治療を通して学びます。

彼らは、職場や家族内での問題の解決のために助けを必要とするかもしれませんが、まずは彼ら自身が問題解決に対して積極的にならなければなりません。彼らは希望を失うために行動するのではなく、より良く生きるため、そして安全な性生活を送るための知識を獲得するために行動するのです。

現在ここでは、203 人が活動家として参加しています。ボアネの活動家達は、人々の興味関心を得るため、そして HIV/AIDS の情報を広めるために、キャンペーン活動やドラマや演劇といった、様々な方法や活動を行っています。

人々は自分の HIV の状況を知ると、更なるテストを受けるために再び HOPE センターに訪問するようになります。HOPE の活動は、若者同士の教育、学校での HOPE コーナーの開設、地域の指導者の啓蒙や寝たきりの患者の戸別訪問、産婦人科での妊婦への講習やハーブ農園の運営など、様々なものです。

## モザンビーク北部カボ・デルガドでの活動

様々な多くの異なる活動が実施されるとき、それぞれの活動は、それを単独で行う時よりも多くの成果をあげることができます。モザンビークの北部に位置するカボ・デルガドでは、Humana がビリビザでの農業学校、教員養成学校、そして中古衣類販売ビジネスの3つのプロジェクトを進行させています。

カボ・デルガドでの Humana の開発への取り組みは、以下の3つにまとめられます。

- ・ 一般的な教育
- ・ 健康の促進／向上
- ・ 家庭経済の向上

カボ・デルガドの1地域、ビリビザにある Humana の学校は、州都から 225km 離れたところにあります。それは、教員養成学校と農業学校の2つからなります。Humana は 1999 年に学校を引き継ぎ、地方の政府と向こう 50 年にわたり施設を運営していく契約を交わしました。教員養成学校では、生徒達に 2 年半の教育を提供します。学校には現在、277 人の生徒と 15 人の先生がいます。また、農業学校には、800 人の生徒と 18 人の先生が在籍し、そこでは生徒達に、3 年間に渡る基礎的な農業技術と中等教育がなされます。



## ビリビザの農業学校

3年に及ぶ学校教育の中で、生徒達は基本的な農業の資格の得られる職業訓練と、一般の教育の8～10年生に相当する教育を受けられます。学校では、生徒達が教室で学習したことを実践に移すための畑や菜園を保有しています。

学校では、より高い生産性と環境を配慮する、現代的な方法に重点を置いています。生徒たちは彼らの受けた教育をもとに、自作農として独り立ちできるほか、モザンビークの小規模農家のための農業指導者として働くこともできます。

## Farmers Clubs (コミュニティ開発)

ここ3年間、農業学校の活動は、他の団体GAIAと連携して行ってきました。学校の3年生は、新しい農業方法を指導するため、農民の人と一緒に働いています。

ビリビザの村は、象やライオン、サルやイボイノシシ、クロコダイル、その他の豊富な野生動物のために、3年前に国立公園に指定された広大な森林地帯に位置しています。

農業は伝統的な焼き畑を用いています。毎年、地域内の広大な面積が焼かれ、雨期にはそれらの有機的な肥料が全て、川をへて海へと洗い流されてしまいます。土は次第に貧弱になり、数年間の耕作の後、農民は他の場所への移動を余儀なくされます。

これを受けてGAIA運動とビリビザの農業学校は、保護的な農業を広め、堆肥を作り、畑の周りにフェンスを設けて作物を守り、薪を効率よく生産し、トイレやその他のものを普及させるべく、農民の人々に知識を教授することを始めました。これは、環境、そして農民の経済、更には安全な食糧の産出に貢献しています。

2006～2007年にかけて、教員養成学校では、農民の人々により良い生産方法を伝えるため、5つの

の地域で合計25のFarmers clubを運営しています。これは、7つの教員養成学校が50人の仲間と一緒に、合計175のFarmers clubを運営しようとしている、その大きな運動の一部に過ぎません。毎週、農民の人達は講習会に参加し、生産向上の方法や新しい農法の実施、作物の収穫量や種類を増加させる方法など、100を超える様々なことを学んでいます。

